

# みどりかいだより 96号 Web版

鳴門教育大学附属幼稚園 みどり会広報部 2021.3.5発行

## ◆会長挨拶 みどり会会長 新居 大

園庭の桜の蕾も大きく膨らんでまいりました。

本年度は新型コロナウイルス感染症により、幼稚園での年間行事も縮小や中止を余儀なくされました。しかし、園長先生をはじめ諸先生方は、この状況の中で可能な限りの対策を講じ、たくさんの方の愛情を注ぎながら子どもたちを守り育ててくださいました。四季折々の自然に触れ、心ゆくまで遊ぶことのできる園の環境こそが、子どもたちにとってかけがえのない最高の学びの場となりました。

特に今年は、ICTを活用した保護者向けの子育て講座、休園中の教育支援としての『おうちでほいく』を実施して下さり、また幼児教育研究会を全国へ発信されるなど、どれも素晴らしい成果を収められました。これら、今だからこそ必要とされる取り組みをいち早く実践されました先生方に対し、私たちは感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。

さて、みどり会活動におきましても、このコロナ禍によって、先輩方から受け継いできた活動に多大な制約を受けました。しかし、新たなる日常を取り戻した際には、みどり会の良き伝統が次に引き継がれ、更に新しい一歩を進められることを期待いたします。

人類にとってのこの苦難の中においても、子どもたちはいつも瞳を輝かせ好奇心に満ち溢れています。附属幼稚園での生活を人生の礎とし、みんなと手と手を取り合い、育ち合い、世界へ羽ばたく子どもたちの未来の姿は、私たち保護者の大きな希望の光です。

最後になりましたが、伝統ある附属幼稚園のため、私共みどり会も微力ではございますが貢献することをお誓いし、ますますのご発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 令和二年度 みどり会 年間活動報告

### 広報

今年度は、『みどりかいだより』94~96号を発行しました。

- ・94号 2020年 6月15日発行 会長挨拶、園内環境紹介、各活動紹介、先生方の紹介
- ・95号 2020年 10月30日発行 ペアレンツセミナー、前期活動報告、秋季運動会、本園のコロナ対策
- ・96号 2021年 3月 5日発行 会長挨拶、年間活動報告、大塚国際美術館、眉山登山、落ち葉焚き、茶話会お土産

今後とも、親しみやすい紙面づくりに取り組んでまいります。

### おやつへのや

例年は年間を通し沢山の保護者の皆様ボランティアとしてご参加頂いておりますが、今年度は感染症予防のため中止しておりました。

おやつのお手伝い活動として『落ち葉焚き』のお手伝いをさせていただきました。

焚き火で作ったお芋はホクホクで甘く、園児の美味しそうに頬張る可愛い笑顔が広がっていました。また本年度最後の大きな行事の茶話会も中止となりましたが、先生方への感謝をこめ、また園児や保護者も楽しめるお土産を厳選させていただきました。感染症が落ち着き、おやつへのやの活動が再開されましたら、子どもたちと触れ合える楽しい機会ですので、ぜひご参加ください。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

年長



年中



年少



### 絵本のへや

絵本のへやでは、絵本の読み語りを行う「おはなしの会」を中心にご協力をいただいております。今年度の活動は、絵本の貸し出しのみとなりました。代々残されている大切な絵本を丁寧にお取り扱いいただき心より感謝申し上げます。

### 音楽とともだち・人形劇

例年は、冬休み前集会で、コーラスや人形劇を披露しております。今年度は中止となりましたが、再開された際には、表現豊かな楽しい活動を行ってまいりますので、ご参加よろしくお願いいたします。

### クリーンデー

今年度のクリーンデーは中止となりましたが、日々、先生方が降園後、丁寧に消毒、清掃を実施して下さっており、園内の衛生も保たれ、園児は安心、快適に園生活を送ることが出来ました。心より感謝申し上げます。またクリーンデー実施の折には、ご協力よろしくお願いいたします。

### 駐車場

今年度のみどり会駐車場は、たくさんの方にご利用いただき、コロナ禍で例年とは異なることもありました。時間差登園となり、朝は比較的スムーズにご利用いただけました。

降園時や行事などでは混雑することもございましたが、時間にご配慮いただき、みなさまの譲り合うお心遣いのおかげをもちまして運営することができました。自転車をご利用の方々にもご理解、ご協力いただきました。皆さまに感謝申し上げます。

また、毎月20日は「学校安全の日」として立哨を実施し、交通安全を啓発して参りました。

今後も、安全で気持ちよく便利に、皆さまにご利用いただけますよう運営して参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。





大塚国際美術館 HP より

ある朝、空を見上げて「ママ～、天国がいっぱい！きれい～！」と、息子が大きな声で私の腕を揺すりました。息子の視線の先の空を見上げると、雲の間から、太陽の光が差し、神秘的な綺麗な空が広がっていました。その色彩を見るなり、息子が何を言ってるのか、気が付きました。それはまさに『最後の審判』の空の色そのものだったからです。「大塚美術館で見た絵のこと？」と尋ねると、「そうそう。天国の絵。その色と一緒に裸の人とか天使とかいっぱいあったな～」と、ケラケラ笑いながら話していました。「あの絵は『最後の審判』という題名よ。」と続けると、「抜け殻の人、面白かったな～」と、ミケランジェロの自画像と言われている部分の絵も記憶に刻まれているようでした。

「裏切り者もいたよな～。悪いな～。もう一回、どの人か顔、見たいな～」と、正義感をかざしているのでしょうか。『最後の晩餐』の話へと会話が弾みました。

年長児の大塚国際美術館への親子遠足。

子どもに絵画鑑賞なんて出来るのだろうか、そして、理解できるのだろうか、美術館でうるさくしてしまわないか、これが最初に抱いた不安でした。そんな懸念が生じたご家庭も多かったのではないのでしょうか。

その日は、美術館という未知の環境に、ただテンションが上がっているようにしか見えず、何を感じながら見ていたのか解らないままでしたが、数日経っての日常の何気ない出来事から、こんなにも子どもの感性に響いていたことを知り驚きました。なんて素晴らしい経験をさせていただいたんだろう！と。

幼少期に培った感性が可視化されて人に伝わるまでは時間がかかると思います。

でも、まずこういう日常の感嘆からアウトプットが始まるのかなと、成長段階の一面を垣間見た瞬間でした。感性が豊かになればなるほど、自然や環境を大切に、より一層、人へと気を配れる人になっていくと信じています。このエピソードは一例にすぎず、親子遠足は、各々の家庭で、各々の『気付き』があったことでしょう。大塚国際美術館への遠足は、有名絵画を観る知識の蓄積だけでなく、アートを通し、心をも大きく育てる遠足だという本園のプログラムの素晴らしさを知り、また一層、園への感謝が深まりました。

眉山登山 令和2年 11月9日

附属幼稚園の子どもたちの成長を見守ってくれているかのように徳島市中心部にそびえ立つ眉山。今年も紅葉で色づいた美しい山中を、歌いながら元気よく歩く子、クイズをしながら進む子、ドングリや落ち葉を集める子、子どもたちの足取りは力強く、誰ひとり怪我することなく、無事に登頂下山をすることが出来ました。それもひとえに、下見をし安全確認をしてくださった先生方はじめ、ご参加いただいたボランティアの保護者の皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。眉山登山は、本園の教育目標でもある、『たくましい子ども・しなやかな子ども・育ちあう子ども』を保護者が目の当たりにできる貴重な機会です。今後とも、ご参加ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

茶話会手作りお土産

子どもたちの豊かな表情、湧き出るエネルギーに感動した表現会。今年度の可愛いらしい手作りプレゼントを紹介します。

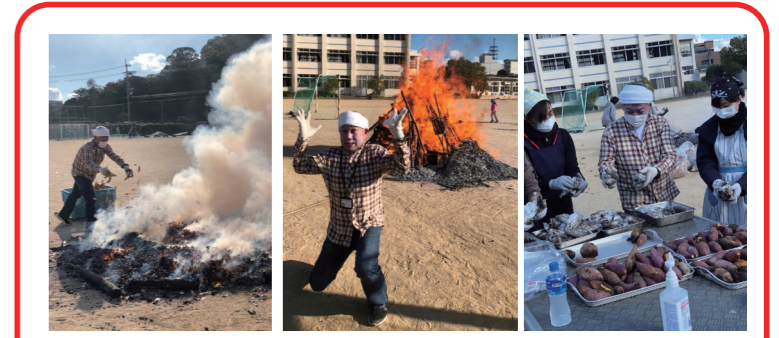


落ち葉焚き



**年少** アルミホイルに包まれたサツマイモをマイク代わりに、歌いながら星組さんがやってきました。先生方の歌声に心も弾み、愉快地楽しみながらたき火の前に整列。園長先生も子どもたちの好奇心を保つため、火の調整が出来るまでの間ずっと、ダンスも交えて何曲も歌っていただきました。「園長先生がんばれ～」と、大きな声援を送っていた星組の子どもたち。そこには、たき火の熱さに耐えながら、「自分たちのために頑張ってくれているのだ」と、園長先生を一生懸命励ます、思いやりがありました。

**年中** 今年初めての落ち葉焚き。リードする先生の後ろを一行に並び少し様子を伺いながら登場してきたのは、月組の子どもたち。天に昇っていく壮大な火と煙を見て、迫力を実感しながら、やる気満々でお芋を投げにやってきました。2度目の落ち葉焚きでちょっと余裕を見せていたのは空組の子どもたち。落ち葉のクッションの上で気持ちよさそうに寝たり座ったり。自分たちが集めた自然物に触れ合うことで、季節を感じ、遊びの中から思考力・集中力を高める様子。「どうして？なんだろう？」と、それぞれ疑問を抱き、燃えさかる炎の前で、手をかざして温度を確かめる子、顔だけ熱さが直撃するため顔面を腕で覆う子、空高く舞う灰や煙を見て質問する子。沢山の疑問に先生と子どもたちは対話されていました。



顔が火傷しないように日焼け止めを真っ白に塗って燃えたる火の管理をする園長先生。命がけですが、そのお姿はお茶目です♪



**年長** 元気よく、たき火の外に飛び出すほどの逞しい投げっぷりに「ちゃんと中に投げて～」と先生の声が響いたのは山川組さん。焼き芋が完成するまでの間、小学生が何やら披露しに来てくれました。年長さんの先輩たちを見る眼差しは、真剣そのものでした。「もうすぐ自分たちがこうなるんだ！」とドキドキ、ワクワク。小学校のご協力のお陰で、自分たちの将来像をイメージし、目指す物が定まったかのような、やる気と希望に満ちあふれる後ろ姿を見ることができました。自然の空気や音、光を体感し、心も身体も豊かに育っていく。幼小連携も日常からスムーズに行われており恵まれた環境です。色々な経験を大切な仲間たちと楽しんでいました。

